

  

# 図書館報

No.23



● ● 目 次 ● ●

松山大学図書館の問題点.....	2
図書館の自己点検.....	3
資料検索 電子資料編 .....	4

私が薦めるこの一冊.....	6
新稀蔵書紹介 その1 .....	7
統計データで見る松山大学図書館.....	8

## 松山大学図書館の問題点



図書館長 倉田 三郎

松山大学図書館は、近年、大きな変革の波を受けています。もちろん、この変革の波は松山大学図書館のみに限らず、日本のほとんどの図書館においても経験していることと思われます。

わが大学図書館では、インターネット時代に対応し、1997年度にWWW用OPACを公開しました。また、1998年5月には、図書館内の専用端末をWWW用OPAC(蔵書検索用パソコン)に変更しました。その甲斐もあり、図書館利用者は着実に増加しています。

WWW用OPACは利用者に好評で、増設が新たな課題となっています。さらにパソコンに関しては、ノート型パソコン携帯を義務化する学部が増え、館内での利用方法について早急な対応が求められています。

数年来の課題であった「相互協力」については、1999年度に全国の図書館間相互協力業務(NACIS-ILL)に加入することを予定しています。

いまひとつの課題は、電子図書館への対応です。CD-ROM等電子資料の充実と、その利用促進のための環境整備を急がなければなりません。

このようにわが大学図書館は多くの問題を抱えています。しかし、問題があるからこそチャレンジ精神が湧くということも言えるでしょう。このチャレンジ精神で問題を解決していきたいと思います。皆様の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 松山大学図書館所蔵の郷土史料



逐年随録 / 井手 正光著

梅津寺海水浴場會記録 / 井手 正光著

井手正光……松山市生まれの教育家・政治家で海南新聞社長、県会副議長などを務めた。上の2点は氏の自筆によるもので、愛媛の自由民権運動を知る上で大変貴重な資料です。



# 図書館の自己点検



## WWW用OPAC（蔵書検索用パソコン）導入半年を振り返る

平成10年5月よりWWW用OPAC（パソコン）を導入しました。

図書館は平成10年5月中旬に、WWW用OPAC14台を導入しました。それまでは、専用端末機7台で、用途も蔵書検索のみに限定されていました。

WWW用OPAC（パソコン）の導入により利用者（入館者）が急増しています。

前年に比べて利用者は、2～3割増加しています。その要因は、

インターネットやメール利用のための来館者が多いこと

従来の専用端末機よりパソコンの方が蔵書検索が簡単であること

リンク検索等の機能を付加することによって、蔵書検索がより効果的に行われるため、利用者による評価が上がってきていること

などが考えられます。

貸出・閲覧冊数が、大幅に増加しています。

利用者増の波及効果として、貸出・閲覧冊数も増加しています。

このことは、結果として、従来あまり図書館を利用していなかった学生の利用が急激に増加することになりました。利用者サービスを目的とする大学図書館にとって、パソコンに切り替えたことの大きな成果の一つであるといえましょう。

ただ、その弊害としては、私的なメール利用などにより一利用者当たりの占有時間が長い場合が見受けられ、極端なときは、蔵書検索を目的とする利用者が、順番待ちをしなければならないような状況が時には見られることです。パソコンが混雑していることもあり、上級生の中には機能の劣る従来の専用端末機を使っているものも少なくありません。

ところで、パソコン利用者のうち、図書館資料検索＝蔵書検索の利用者は約3割程度です。パソコン導入の目的は、蔵書検索が容易にできること、インターネットを利用した情報検索にも慣れて、様々な情報検索方法を習得することにあつたわけですが、実際のパソコン利用者のなかには、本来の目的を逸脱している利用者も見受けられます。

パソコンを、蔵書検索に利用する学生のために、試験期間前や試験期間中は、パソコンの用途を限定することによって、現在のところ対応しています。従来の専用端末機7台からWWW用パソコン14台に増設しましたが、現状では見込みを上回る利用状況であり、来年度以降に、パソコンの増設を計画しています。

利用者はパソコンによる情報検索の達人になれます。

図書館サイドの希望として、図書館資料の検索に止まらず、ホーム・ページ上に作成しているリンク集から他機関等の利用や、検索エンジンを有効に活用し、検索テクニックを向上させて、学習・研究に役立てて欲しいと願っています。求める情報・資料を、有効かつ確に収集するために、WWW用パソコンを大いに活用しましょう。



## 参考資料を探すには

各授業でのレポート提出や、ゼミナールでの報告の準備、さらには卒業論文の作成のために図書館を利用することもあるでしょう。このようなときには、お目当ての本を図書館で探すということばかりではなく、そのテーマに関連する資料にはどのようなものがあるのか、ということも含めて調べなければなりません。その昔には「雑誌記事索引」や、「学術雑誌総合目録」、雑誌巻末の「文献月報」で関連する書籍や雑誌論文を調べ、それら図書や雑誌が図書館にあるか所蔵カードを引く、というような作業をしたり、記憶を頼りに新聞の縮刷版のページを繰る、というようなことが必要でした。ところが、様々な情報を電子化する波は図書館を取り巻く環境にも及び、現在では、コンピュータを利用することにより、これまでに比較してずいぶん容易かつ網羅的に資料を収集できるようになりました。以下では、主に法学部生や法律を学ぶ人を対象として、電子媒体を利用した参考資料の収集方法を簡単に紹介することとします。

## 電子媒体を利用した資料の検索・収集

資料を探すにあたり、もっとも手軽なものひとつに、CD-ROM媒体を利用する方法があります。前述の「雑誌記事索引」や「学術雑誌総合目録」もCD-ROM化されています。ほかにも新聞記事をCD-ROM化したものもあります。法学を学ぶための専門的な資料を探すには、「法律判例文獻情報」のCD-ROMによる検索が便利です。これは同名の冊子媒体をCD-ROM化したもので、年1回更新されています。このCD-ROMでは、キーワード検索・著者検索・判決裁判所検索のほか、記事の分類による検索も可能で、必要な文献資料の絞り込みも容易に行うことができます。また、判例を調べるには、「判例マスター」「リーガルベース」「判例体系」などのCD-ROMを活用することをお薦めします。これらによれば、そのテーマに関連する判例を網羅的に収集できるばかりでなく、あるひとつの事件に関する判例とその審級関係や、その事件に関連する判例についても調べることができたり、その事件についての研究や解説をしている記事を探したりすることもできます。

お目当ての資料が見つければ、つぎはそれを実際に手に入れる方法、ということになるでしょう。これについては、MINEやWebOPACを利用することにより、それらが本学の図書館・研究所に所蔵されているかどうかを調べることができます。これらの利用方法については、図書館が主催する図書館見学などですでに説明を受けているでしょう。

では、本学内に所蔵されていないものがあつたときはどうすればよいでしょうか。WebOPACについては他の多くの大学も採用していますから、近くの大学の所蔵情報などをこれで調査することもできます。が、もう少し対象を広げ、国内の大学・研究機関の所蔵情報を調査する方法があります。学術情報センターが提供するWebcatを利用することにより、学術情報センターに登録されている各機関がお目当ての図書や雑誌を持っているかを調べることができます。この情報をもとに、図書館のレファレンス・カウンターを通じ、その資料を持つ機関に貸出や複写依頼をし、資料を手に入れることができます。



## あなたの“もっと”にお応えしましょう

たとえば、前述の「法律判例文献情報」CD-ROMについては、更新が年1回、しかも情報源となる冊子媒体への掲載が、雑誌・圖書の発行日から数ヶ月遅れていることから、いつでも最新の情報が入手できるというわけではありません。また「判例体系」CD-ROMは年2回更新されますが、新しい情報については、判決全文や書級関係などの情報のすべてが整っているというわけではありません。したがって、より新しい情報を入手するには従来からの検索・収集方法に頼る必要があります。しかし、何とかがより簡単に最新の情報を検索・収集する方法はないのか、ということになりますと、つぎのようなものがあります。



まず、インターネット上のホームページで法律情報を提供するものがあります。その中で、判例情報を提供するものに、最高裁判所のページや、「法律家ゴマのホームページ」などがあります。前者は著名な最近の最高裁判所の判例を掲載しており、後者は裁判所時報に掲載された事件をWeb上に紹介しているようです。判例以外の法律情報を提供するものとしては、法令情報を提供する「法庫」や、「愛大六法」などがあります。このほか、金沢大学や東北大学には法律関係のリンクが充実したページもあります。是非参考してみてください。



さらに、インターネットや電話回線を利用して最新情報を提供する商用データ・ベースのサービスがあります。法律関係雑誌情報の検索、判例情報の検索のための代表的なものとしてTKCや、LEX/DBを挙げることができます。これらは、法令情報、判例、重要語句の説明などのサービスを提供しています。また、新聞記事の情報を提供するものとしては、G-Search、ASSISTやNIFTY SERVEなどがあります。情報先進国アメリカ合衆国では、法律関係の商用データ・ベースが充実しており、なかでもLEXIS/NEXISやWESTLAWは有名です。また、インターネットで情報を提供するものも充実しており、FINDLAWやCornell Law Schoolのホームページでも様々な情報を収集することができます。

## 参考となる図書など

弥永真生「法学のマニュアル」法学教室にて連載中；田島裕『法律情報の検索と論文の書き方』（丸善、1998年）；情報図書館 RUKIT『データベース活用マニュアル』（情報図書館RUKIT、1996年）；指宿信・米丸恒治『法学のためのインターネット』（日本評論社、1996年）

### ホームページアドレス一覧

最高裁判所	..... <a href="http://www.courts.go.jp/">http://www.courts.go.jp/</a>
法律家ゴマのホームページ	..... <a href="http://village.infoweb.or.jp/~fwg16015/">http://village.infoweb.or.jp/~fwg16015/</a>
法庫	..... <a href="http://www.houko.com/">http://www.houko.com/</a>
愛大六法	..... <a href="http://roppou.aichi-u.ac.jp/">http://roppou.aichi-u.ac.jp/</a>
金沢大学	..... <a href="http://www.law.kanazawa-u.ac.jp/">http://www.law.kanazawa-u.ac.jp/</a>
東北大学	..... <a href="ftp://ftp.tohoku.ac.jp/pub/soc/law/tohokulaw.html">ftp://ftp.tohoku.ac.jp/pub/soc/law/tohokulaw.html</a>
FINDLAW	..... <a href="http://www.findlaw.com/">http://www.findlaw.com/</a>
Cornell Law School	..... <a href="http://www.law.cornell.edu/source.html">http://www.law.cornell.edu/source.html</a>



## 私が薦めるこの一冊



経済学部 助教授 渡邊 孝次

### 宗教改革

オリヴィエ・クリスタン著、木村恵一訳、創元社「知の再発見」双書75

分類番号：081 / C 5 / 75

配架場所：開架（2階）  
他に「指定図書」もあり

カトリーヌ・ド・メジチといえ、名高いメジチ家からフランス王家に嫁いだ女性として有名だが、世界に知られたフランス料理の大恩人でもある。ルネッサンス期に発達したイタリア料理に慣れた彼女が、当時まだ田舎のフランスのメシなど食えないだろうと考え、お抱えコックを大勢引き連れていったのがフランス料理の栄光のもとだからである。

ところで、彼女が新教徒にとった対応は複雑だった。最初は寛容だったが、1572年に、大虐殺の黒幕に豹変するからである。これ以降、新旧両キリスト教徒の殺し合いは激化し、ヨーロッパ全体が試練の時代を迎える。この惨状に終止符を打ったのがナントの勅令だったが、太陽王ルイ14世は、信教の自由をまた取り消してしまった。そのため、当時実業界をリードしていたユグノー（フランスの新教徒）はロンドン、アムステルダム、ジュネーブなどに亡命し、フランスは重大な頭脳流出を経験した。

宗教改革以前をたどると、中世末期には、3人に1人の命を奪ったペストがもたらした無常感のなかで、人は死と死後の救いを考え始める。つまり信仰心が高まったのである。ところが、すぎるべきカトリックの坊さんは、領地の年貢の計算ばかりして、信徒の不安に応えなかった。同時に、都市と貨幣経済が発達し、印刷技術が発達して識字率が上昇し、新航路や新大陸が発見されて世界観が大幅に修正されるなど、歴史は大きく動く。そうした要因が複合して宗教改革を生んだのである。高校世界史で習うように、ルターが免罪符に対する抗議状を貼ったため、というほど単純ではない。

この本が含まれる「知の再発見」双書は、図が多くとても分かりやすい。歴史に興味のある人には絶対オススメである。



経営学部 講師 岡崎 利美

### 有斐閣経済辞典（第3版）

金森久雄 [ほか] 編、有斐閣

分類番号：330 . 3 / Y 5 / 1 ( 3 )

配架場所：開架（1階）・参考図書コーナー

「知らない言葉が出てきたら、辞書で調べなさい。」

これは小学生の頃から現在に至るまで、国語や英語の時間に繰り返し聞き、実践してきたことだろう。

しかしあらゆる分野の研究において「言葉の意味を限定する」つまり「定義する」ということは非常に重要かつ困難なこと、辞書に書いてあるからといって論呑みにするのは適切ではないし、危険でもある。とりわけ現実社会と密接に結びついている分野では、新しい状況を説明するために新たな用語が作られたり、同じ言葉が異なる意味で使用されるようになることも少なくない。

だからといって最初からすべての言葉を定義することから始めるのは効率的ではないし、有益でもない。それでは話には前に進まない。目的に合致した良質の辞書を選んで、うまく利用していくことが必要だろう。

この辞書は経済に関連する幅広い分野の用語を網羅し、簡潔に定義・説明したものである。専門用語ばかりでなく、新聞等でよく目にする言葉も多く含まれている。また巻末には英文を中心とした欧文索引がついているので、英字新聞や洋書を読む際に、英和辞典とともに傍らに置いておくとう便利である。

ただし利用する際は、その定義が適当かどうかということ必ず考えてもらいたい。「辞書（もしくは本）に書いてあったから」という言い訳は、大学でも社会でも通用しないということ覚えておいてほしい。

# 新稀観書紹介

## その1

### Karl Marx, Le Capital: Traduction de M.J.Roy 1872.

〔紹介者〕経済学部 教授 望月 清人

マルクスのフランス語訳の資本論の初版本が珍重されているのにはいくつかの理由があります。

著者が世界を動かした世紀の大思想家であるということのほか、

一つは、たいへん芸術的な仕上げの本で、経済書なのに美しい押し絵が入っています。

一つは、マルクスが生前に校正した最後の版なので学問的価値があります。

一つは、マルクスがフランス語で書いた序文をペン書きの自筆で見ることができます。(凸版)

この本の裏表紙に Y A G I B I B L I O T H E K という蔵書印が押されています。私の恩師八木助市先生の蔵書だったものを、恩師の没後私が奥様に勝手に所望して拝領したものです。先生の蔵書の中からどれでも形見にどうぞとおっしゃる奥様の言葉に、奥様の無知につけ込んで拝領したものです。拝領というか横領というべきか、私が秘蔵していた十数年間ずっと気がとがめていました。八木先生は大学昇格のころ本学へ集中講義で来ておられましたから、本学とも少なからず因縁のある先生です。本学の図書館に収蔵されたということで先生も瞑目しておられるでしょう。

八木助市先生は、東京商大でかの福田徳三のもとで研究されました。同門に社会思想史の大家大塚金之助先生がいます。八木先生は、ドイツに何年も留学され、ロードベルトゥスに関する膨大な労作があります。ロードベルトゥスは日本ではあまりポピュラーではなく、大塚先生のお骨折りも空しく遂に出版されることがありませんでした。先生の没後神戸大学の院生に頼んで、奥様がご自分のお金で原稿の整理をなさいました。その十巻ほどの限定の上製本は、大塚先生が大塚文庫を東独の図書館に寄贈される時に、一緒に持って行かれました。大塚先生の八木先生への尊敬の念と熱い友情が伝わってきます。しかし、哀しい。

私は、神戸大学で八木先生の助手を勤めました。大理石造りの兼松記念館の先生の研究室は大きくて立派で、先生がドイツから買って帰られた洋書が汗牛充棟、室内を圧していました。先生は研究室の鍵を私に渡して下さり、助手の分際で研究室を自由に利用する便宜を頂戴しました。その時、書架にフランス語の資本論があったという記憶がありませんから、先生は自宅に愛蔵しておられたのだと思います。

注：本書は1998年5月に望月教授より本学図書館に寄贈されたものです。



# 統計データで見る松山大学図書館

## 図書館利用状況推移表

	入館者数	貸出冊数	閲覧冊数		
			開架	閉架	小計
1994年度	162,544	19,786	56,289	6,807	63,096
1995年度	153,562	23,107	56,506	8,393	64,899
1996年度	180,936	27,492	60,997	10,487	71,484
1997年度	188,676	35,736	77,554	12,774	90,328
1998年度	140,338	25,982	49,819	7,776	57,595

ただし、1998年度は10月31日現在

## 『相互協力』利用件数推移表

	本学からの申込み件数			他館からの受け付け件数			合計
	文献複写	相互貸借	所蔵調査	文献複写	相互貸借	所蔵調査	
1994年度	170 〔27〕	85 〔29〕	55	185 〔11〕	3 〔0〕	22	520
1995年度	296 〔36〕	144 〔39〕	86	133 〔3〕	5 〔0〕	10	674
1996年度	380 〔58〕	226 〔59〕	107	99 〔4〕	6 〔0〕	21	839
1997年度	403 〔60〕	277 〔56〕	73	83 〔10〕	7 〔0〕	22	865
1998年度	288 〔15〕	225 〔50〕	43	60 〔5〕	12 〔0〕	11	639

〔 〕内は謝絶の件数 　ただし、1998年度は10月31日現在

## 年度別受入冊数推移表

	和書			洋書			計
	開架	指定	閉架	開架	指定	閉架	
1994年度	1,890	452	6,670	28	6	7,072	16,118
1995年度	2,347	1,654	6,434	71	11	6,136	16,653
1996年度	3,559	2,188	7,262	148	107	6,462	19,726
1997年度	6,253	2,397	4,770	109	147	5,617	19,293
1998年度	4,827	624	3,481	269	151	3,665	13,017

ただし、1998年度は10月31日現在 　研究室用を除く

松山大学図書館報 No.23 1998年11月1日発行

編集・発行 松山大学図書館

〒790-8578 松山市文京町4番地2 TEL(089)925-7111[代.]  
ホームページアドレス <http://www.matsuyama-u.ac.jp/lib/lib.htm>  
E-Mail:w-lib@cc.matsuyama-u.ac.jp